



と き か
時代は変われど...

ちいろば会理事 富田 忠一

ここ数年、テレビをつければ求人広告や人材派遣、人材紹介など、転職斡旋関連会社の「転職の先にはバラ色の人生が存在している」かのごとく転職を煽るようなコマーシャルばかりが目につきます。

15歳~64歳の生産年齢人口の減少により、業界を問わず人材不足が慢性化し、その上、転職者が増加し、定着率も低下していることから多くの事業所が継続的に求人を続けなければならない状況が発生しています。また、就職活動の方法も昔とは様変わりして、就職、転職を希望する人が前述した斡旋会社に登録して就職先を紹介してもらうという方法がスタンダードになりつつあります。

ちいろば会でもここ数年職員の定着率は顕著に悪くなり、入職から1~3年程度で退職する人が増えて、求人広告や人材紹介に多くの費用を費やしています。いずれの職場でも仕事内容や賃金、人間関係に満足して、楽しく働き続けられるような職場はめったにない中、コマーシャルに影響されて転職を考える人たちの気持ちも理解できなくなっているのですが、どんな仕事であってもそれぞれの仕事のやり甲斐や醍醐味も経験しないうちの転職で「バラ色の人生」が切り開けるのかも大きな疑問です。先日、ネットニュースでかつて、大手の人材派遣会社の会長を務め、人材派遣や前述のような転職システムをこの国に定着させた立役者とも言える竹中平蔵氏が「かつて日本人にあった『辛抱強さ』はなくなり、文句ばかり言う国民になってしまった」と発言したという記事を目にしましたが、その真偽と真意は測りかねるのですが、「どの口がそんなこというてねん!」と一人で突っ込んでしまいました。

わたしたち対人支援の仕事の醍醐味は、支援の対象となる方々の人生の一部に同伴させていただく中で、自分とは違う価値観や考え方、社会の観方、見え方に出会い、互いに影響され合いながら成長(変化)していくことです。そのためには、少なくとも5年、10年という期間が必要ではないかとわたしは考えます。また、自分の価値観や考え方を大切にすると同様に他者の価値観や考え方を尊重するためには、自身の人権感覚が厳しく問われます。対人支援の仕事を永く続けるためには、人権学習を積み重ね自身の人権感覚を磨き続けなければ他者への人権侵害の気づきすら無くなってしまいます。

時代の変化の中で、転職も考えずに「同じ職場で働き続けることがネガティブな思考」であるかのように扱われる今日、また、どんな職場であれ、不平や不満もあることでしょう、しかし、対人支援の仕事を志す人々には当該の仕事のやり甲斐や醍醐味が理解できるまでは働き続ける覚悟を持って入職し、人権学習を積み重ねることをお願いしたいと考えます。

二〇〇〇年十二月十二日 第三種郵便物承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行

こよみ な く
暦の無い暮らしえんしゅにん おくだようこ
ちいろば園主任 奥田陽子

さくねんまつ すうめい しょくいん ひとつぜんたいしよく ちよくご よてい こうれい かい ちゅうし
 昨年末、数名の職員がある日突然退職したため、直後に予定していた恒例のクリスマス会をやむなく中止
 しました。利用者のみなさんをがっかりさせたこと、混乱を招いたことを申し訳なく思っています。三ヶ月近
 く経った今もお十分な職員配置ができず、喫茶店（MAGARInoドンキー）の休業、当事者活動（みんな
 の発表の場）の休止など、通常の活動にかなり制約が生じています。利用者のみなさんのなかには不満を口
 にする人もいますが、ほとんどの人が事態を十分に理解できないまま不安な気持ちで過ごしているように思い
 ます。

クリスマスが過ぎた後もしばらく「アーメン（＝礼拝）、あるよ」「アーメンまだ？」「（パーティーで）お肉、
 食べる？」と、Yさんからの投げかけは続きました。あるはずだった行事が行われないうまま何もない日常
 を過ごすことに対し合点がいかず、ものすごい違和感と不安を感じているようでした。Yさんは今でも毎日、カ
 レンダーを指差したり持ち運んだりして何かを訴えてきます。次は何があるの？何かあると言ってよ！これま
 で経験した行事がこの先はどうなるの？Yさんからそんな不安な想いを日々ぶつけられているように感じてい
 ます。

また、複数の利用者さんから毎日のように、次年度の一泊旅行について投げかけがあります。「旅行の行き先
 は決まりましたか？」「旅行行ったら〇〇買おうね」「観光バスで行くなー？」・・・と。Uさんからは毎年繰り
 返し旅行の有無を確認されます。これまでは迷うことなく「旅行あるよ！行こうね！」と前向きな返答をして
 きました。しかしこの度初めて返答に詰まりました。今の職員数で実施できるだろうか…と消極的になり、
 みなさんからの投げかけに「旅行のことはまだ何も決まっていないうです…」と答えるようになりました。私
 がこれまでに無い返答をするので、利用者のみなさんはとても心配そうに質問を繰り返して、慌てて行動したり
 眠れなかったり等日々の言動にも変化や影響が生じています。

私たち職員にとってクリスマス会や一泊旅行、おまつりといった行事は、日常とはまた違った経験ができ
 る「非日常」として位置付けています。利用者のみなさんに豊かな経験をしてもらいたい、楽しい時間を共有
 したいという想いでいます。

しかし、私たち職員のように暦（月日の流れ）を文字やカレンダーで理解することの難しい利用者のみ
 なさんにとっては、こうした非日常の行事そのものが暦となつて位置付けているのです。だからこそ、一つの
 行事が無くなるということは、月日の流れが止まるのではないかとこの先はどうなるのか？といった不安やし
 んどさを感じるのでしょうか。非日常のちょっとしたお楽しみが無くなるだけではなく、暮らしの中に暦として
 位置付けている大切なものを失うことになるのです。それなのに、職員側の都合で無くしてしまったことを
 本当に申し訳なく思います。

未だに前向きな返答が出来ないことも多いですが、私たち職員はこうした利用者のみなさんの立場に自分
 自身を置き換え、感じ方に寄り添える職員集団でありたいと思います。

そういえば・・・、10月のある日私の兄（自閉スペクトラム症）が、
 「10月なのに今年はまだ栗ご飯食べてないんです。」と言ったとき、「10月
 やからって栗ご飯は毎年絶対に食べなあかんもんちゃうで」と答えた私・・・。
 なんと冷たい…。兄の気持ちに全然寄り添えなかったことを今さらながら
 反省しています…。



—ぼくも わたしも みんながしゅやく主役—

- しつもん 質問① なまえ ねんれい 名前と年齢は？
- しつもん 質問② いま 今は何れとどこで暮らしていますか。
- しつもん 質問③ かぞく 家族にまつわるエピソードは？
- しつもん 質問④ がっこう しゅうろうじだい 学校、就労時代のエピソードは？
- しつもん 質問⑤ さいきん き 最近気になっていること、興味があることは？

- ① 西田 久美子 40歳です。
- ② グループホーム「エンゼルハウス」で暮らしています。実家に帰るとお父さんとお母さんがいます。
- ③ お父さん、お母さんとよく馬見丘陵公園に散歩に行きます。買物に行ったり、野菜を切るお手伝い、ピアノの練習、ジグソーパズルをして過ごしています。工賃でお花をプレゼントするのが楽しみです。
- ④ 河合第2小学校の時、中々自転車に乗れなかったけど、友達が教えてくれて乗れるようになりました。飼育係はうさぎが怖くて逃げてしまいました。スイミングでは背泳ぎで銅メダルがもらえました。中学校では吹奏楽でパーカッションをしました。友達とコンクールで金賞をもらったのが嬉しかったです。
- ⑤ ヘアスタイルが気になります。かわいいより、キレイと言われたいです。しろろと演芸会でピアノと歌を演奏したいです。小中学校の友達と女子会がしたいです。友達の結婚式に呼ばれた時楽しかったのでそんな経験がしたいです。スマホができるようになりたいです。



- ① 竹下 由里子 35歳です。
- ② グループホーム「すみれ荘」で暮らしてます。実家にはお父さん、お母さん、時々、甥っ子と姪っ子がいます。
- ③ 甥っ子姪っ子とチャンネル争いをします。ディズニーチャンネルにするとみんな仲良く見ます。犬のマックス、猫のベルと遊ぶのが楽しみでしたが2年前に亡くなってしまい淋しいです。
- ④ 王寺北小学校ではアイドルみたいになって、5年生のお姉さんたちによくお世話になりました。私が投げキッスすると「キャー！」と笑ってくれました。誕生日にはたくさんさんの友達が蝶々、カマキリやザリガニを捕まえてプレゼントしてくれました。嬉しかったけどお母さんは困っていました。
- ⑤ 近くの映画館がなくなって新しい映画をすぐに観れなくて残念です。やっぱりダンスが大好きです。クルージングにまた行きたい。ダンスして美味しいご飯を食べてきれいな景色をみたいです。



しょうがいふくし しせつ げんぼ げんじょう
「障 害福祉施設の現場の現状」えんしよくいん いそみち かおり
ちいろば園職員 磯道 香織

はやいもので今年度も残すところわずかとなりました。大切な節目となることも多い季節ですね。そして、別れと出会いが多くなる季節なので、環境が変化しそこに自分を適応させようとエネルギーを使う為しんどい時期でもあります。そんな環境の変化がここ数年数えきれないくらい起っています。福祉の現場での職員の離職が止まりません。止まらないどころか、入ってきません、、、私が障害者支援の仕事に就いたのは、娘が幼稚園の時お友達になった子に障害があり、その子のことを知りたいと思ったことがきっかけです。もう約20年前のことです。私が入社した頃は障害福祉の仕事に使命感を持った職員であふれていました。なのにいつからでしょうか、ただの就職先となり、社会全体の理解が不足し、重要性が認識されなくなりました。そして障害福祉施設における人材不足はちいろば園だけではなく、日本社会における深刻な問題となっています。

ほんらいしょうがいふくし しせつ しごと たか せんもんせい ようきゅう りようしゃ しょうがいとくせい たよう
本来障害福祉施設での仕事は高い専門性を要求されます。利用者の障害特性も多様でそれぞれにきめ細やかな支援が必要になります。だけど現実には万年人手不足です。業務量は変わらないのに職員の人数はいつも足りていません。そのため新しく入社してきてくれても毎日を無事に過ごすための最低限の支援のみで精一杯で、業務の引継ぎも不十分のまま働くことになるので福祉の面白さにたどり着くように導いてあげることも出来ません。ただ毎日を無難に過ごす支援をしたくて障害福祉の道を選び残ったわけじゃないのに、もっと利用者みんなと向き合いたいのに物理的に無理な今の現状は福祉への情熱だけで乗り越えるには難題です。

そして、その弊害は当事者の方々に向かっています。働き手のいない現状は利用者ファーストではなく、職員ファーストへ。あるグループホームの入居者募集のちらしを見て目を疑いました。「大声を出さない人、自傷・他害しない人、職員とコミュニケーションとれる人・・・」との条件がつつら書かれていたんです。もはや、障害者支援の仕事をしてる自分は偉くなったと錯覚をおこし、勘違いをし、虐待へと繋がるのだなと恐ろしくなります。

でも、やはり人手不足が一つの要因となっているのは明らかです。利用者さんの高齢化に伴い今まで以上に多くの支援が必要となることは明白なのに見通しが立たない現状の中、知恵を出し合い私たちが大切にしてきた障害者支援を行う環境が整うまで持ちこたえたいと思います。



社会福祉行政の役割

グループホーム職員 岩崎 真滋

社会という言葉をしらべますと「みんな」「人と人のつながり」などがあります。福祉という言葉をしらべますと、「幸福」「幸せ」「豊か」などの意味があります。行政という言葉は、法律に従って国を治める。他にも国家の統治作用のうち立法と司法以外のものの総称などの意味があるようです。

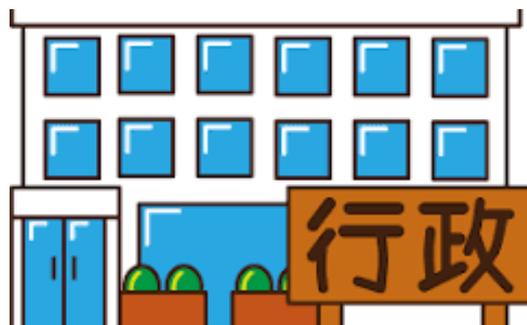
戦後においては、1931年(昭和26年)制定の「社会福祉事業法」によって、行政によるサービスが提供されました。これにより少し遅れて、新国民保健法や国民年金法などの福祉・保険制度の整備が進みました。

社会「みんな」が福祉「幸せ」「幸福」「豊か」なるように、市役所や町役場等の行政は法律等のルールに沿って様々なサービスを住民に提供する機関です。例えば、「健康」「防災」「環境」「保険・医療」「衛生・食料」「公共交通」「教育」など、他にもまだまだ、人の幸せに関係することはあると思いますが、みんなが幸せになるために様々な行政サービスを提供したり、時代に応じてサービスを新しくつくりだしたり色々工夫をしています。

しかし、近年、全国的な少子化高齢化・核家族化が進み、ひとり暮らしの高齢者や障がいのある人、子育て世帯などにおける福祉の課題は多様化しています。また、支援を必要とする人の増加やニーズの複雑化・多様化により、公的な福祉サービスだけでは、それらの全てに対応することが難しい状況となっています。そこで、90年代頃から行政と住民や地域が協働し共に助けあい、支えあう「共助」という福祉概念が広がりました。そして、助けあいや支えあいの土台となるのは一人ひとりの人権の尊重です。

人が安全で安心して暮らせる社会や、まちづくりを実現するためにはどうすれば良いのか、国際連合が掲げる持続可能な開発目標(SDGs)を調べますと人の幸せについて書かれていました。共生社会の実現に向けて、高齢、障がい、子ども、子育て、生活困窮等、地域・コミュニティで助けあい・支えあう関係性の育成、社会とのつながりや参加の支援など17の目標があります。

「誰一人取り残さない」社会の実現のために、行政には住民や各関係機関・団体、事業者さんと協働し、みんなが主体的にかかわる新たな支えあいの福祉行政の仕組みづくりが求められていると思います。



ピンチはチャンス



ちいろば園職員 山下淳一

昨年6月からちいろば園で働きはじめて8か月がたちました。

僕自身、小規模作業所をふりだしに、通所施設や入所施設、ホームヘルパー、生活介護など、長らく障がいのある人たちの支援を仕事としてきたので、多少は

自信を持っていたつもりでした。

しかし、はじめの数か月は利用者が求めていることも理解できなかったり、どう対応していくべきなのか？自分一人では何ひとつ対応できない状況にいらだちや、もどかしさを感じながら支援してきました。

そんななかでも、僕に話かけに来てくれる利用者の話を聞いたり、他の職員の支援のやり方や、作業の進め方などを見ながら、自分なりに「今、どうすべきか？」を考えながら支援してきました。そうしていくうちに、少しずつですが利用者一人ひとりが求めていることや、日々のルーティンワーク、好きなものなどがわかるようになってきて、やり取りを楽しめるようになってきました。特に昨年、年末に何人もの職員が退職されたことで、否応なしに担当する軽作業2階B班の日々の業務や、作業の段取りを任されることになりました。

利用者にとっては、毎年やっていた行事ができなくなったり、今まで毎日顔をあわせていた職員が、退職によっていなくなったりするなど、【あたりまえにあったものがない】状態。

利用者ひとりひとりがショックや不安、混乱などがいろいろな形で出ていて、僕自身「どうしていいのかな？」「何かできることはないのか？」そのことばかり考えていました。

正直、大変さはありませんでしたが、嘆いていてもはじまらないので、これを【ピンチはチャンス】と考えると、少しでも作業しやすいような環境を整えたり、週1回体力を維持するための体操を行ったり、ゲームを一緒に作って、作業の合間にレクリエーションをするなど、今できることを一つ一つやっているところです。

利用者との距離は少しずつは縮まってきているのかなと感じてはいますが、求めている事にまだまだ対応できていないと痛感しています。

それでも、日々の作業やちいろば園で過ごす時間が少しでも楽しいものになるように、これからも精一杯がんばっていきます。

の とはんとうじしん ひさいしやうがいしゃ しえん かげききん きやうりよく -能登半島地震による被災障害者を支援する「ゆめ風基金」にご協力ください-

ことし、1月1日に発生した、能登半島地震により、3月8日の時点でも、石川県輪島市、珠洲市、能登町、内灘町で計約1.7万戸で今もなお断水が続いているとのこと。住む場所も失い、水すら自由に使うことのできない中で、今なお、多くの方々が不自由な生活を余儀なくされている現実を忘れてはいけな思っています。

当然のことながら、被災地域にも多くの障害をもつなかまが暮らしています。今回の地震でも福祉避難所の開設が困難な状況があり、障害をもつ人たちが避難する先もなく途方にくれたとの報告も耳にしています。また、障害者を支援する事業所も地震による被害により、通常の運営ができない状況が続いていることも容易に想像できます。

1995年に発生した阪神淡路大震災を機に永六輔さんや小室等さんら著名人と障害当事者や支援団体が立ち上げた「ゆめ風基金」は、地震をはじめとする自然災害による被災障害者の支援を目的としたNPO法人です。今回の能登半島地震でも、地震直後から「ゆめ風基金」北陸支局の「ゆめ風ネット加賀(ひまわり教室)」が被災地域の状況を丁寧に聞き取り物資の供給などをはじめとした支援活動を行っています。まだ、まだ、困難な状況にある被災地域の障害者の暮らしを支え、復旧、復興のため、「ゆめ風基金」の活動にご支援をお願いします。

奈良県内では、「ゆめ風基金」奈良支局ひまわりの家の呼びかけで、街頭募金や支援の呼びかけを行っています。残念ながら街頭募金等には、ちいろば会から参加することはできませんでしたが、利用者はじめご家族、職員に募金を呼びかけたところ、236,112円が集まり、ひまわりの家を通じて「ゆめ風基金」へ届けていただきます。

現地で支援活動を継続していただいている「ひまわり教室」のみなさんはじめ、「ゆめ風基金」の活動に感謝するとともに、1日も早く被災障害者のみなさんの日常が早く取り戻せることを祈っています。

「ゆめ風基金」のホームページから、
 カードや銀行振込等の方法で簡単に募金ができます。

「ゆめ風基金」ホームページのトップページから

「お知らせ」にある → 「能登半島地震に関して」をクリック。

カードの種類ごとにクリックするとそれぞれの寄付方法へ進みます。

また、銀行振込等の口座情報も掲載されています。

☆^{こうえんかいひ}後援会費・^{ねんかんこうどくりょう}ちいろばだより年間購読料 (2023年12月1日～2024年1月31日)

^{きょうりよく}ご協力ありがとうございました。

篠原範子、窪田義廣、岡田登志、草苑幼稚園、愛の園保育園めぐみ会、ひかりの子学園、
馬見労務教会、清水浩、松藤みどり、藤澤信也

^{いじょう}以上 ^{けいしょう}敬称は ^{りやく}略させていただきます。

※ ^{はいそう}配送の ^{ていし}停止をご ^{きぼう}希望の方は、^{かた}ちいろば園まで ^{えん}ご連絡を ^{れんらく}お願いします。



^{えん}ちいろば園 ^{ばたけ}ブルーベリー畑 ^{ぼしゅう}オーナー ^し募集のお知らせ



^{ことし}今年も ^{えん}ちいろば園で栽培している ^{さいばい}ブルーベリーの木の ^きオーナーを ^{ぼしゅう}募集します。

たくさんの ^{かぶ}株から ^{かぶ}1株 (お一人 ^{ひとり}3株まで) ^{えら}選んで ^{かぶ}オーナーになってください。

オーナーのみなさんには、^{しゅうかく}収穫だけをお ^{ねが}願いします。7月～8月には ^みたくさんの実を

つけるので、その間、お好きな時にお越しいただき ^{えら}選んだ株から ^{おち}思う存分 ^{しゅうかく}収穫いた

だけます。収穫の手間はありますが、^{えら}ブルーベリー好きの方には ^{かた}たいへん ^{とく}お得です！！



◎ ^{しゅうかくばしょ}収穫場所： ^{えん}ちいろば園 ^{ばたけ}ブルーベリー畑

◎ ^{りょうきん}料金： ^{かぶ}1株につき ^{えん}3800円

◎ ^{もう}申し込み期間： ^こ4月1日～ ^{きかん}4月26日まで

^{へいじつ}平日の 9:00～17:30 までにご ^{れんらく}連絡ください。

※ ^{もう}申し込みは、^こお電話にて、^{でんわ}お名前、^{なまえ}ご住所、^{じゅうしょ}ご連絡先等をお ^{れんらくさきとう}知らせください。

※ ^{れんらくさき}連絡先 ^{でんわ}電話 / 0745-72-1923 ^{えん}ちいろば園 (ブルーベリー ^{たんとう}担当)

KSKS ちいろばだより

編集人 / ちいろば会後援会

年 6 回 頒価 50 円

連絡先 / 奈良県生駒郡三郷町勢野北 5-6-14

TEL : 0745-72-1923 FAX : 0745-72-1924

発行人 / 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4F